

広がる共同！あちこちで パート2

江南市 党提案の地球温暖化対策の強化求める意見書が全会一致に 巡回バス請願否決に市民の怒り広がる

江南市議会は、3月定例会最終日に日本共産党市議団提案の「地球温暖化対策の強化を求める意見書」を全会一致で可決しました。江南市でも最大規模の降雨で木曽川が氾濫し市内全域の水没が想定されています。気候変動の対応は今後10年間で正念場です。

10,591人の署名が添えられた「江南市に巡回バスを走らせる会」の請願は、賛成3（共産2、社民1）反対17（+退席1）で不採択に。市民の熱い期待を裏切った議会に大きな怒りの声があがっています。



その一方で、副市長選任議案は賛成6、反対11（退席4）で否決。共産党は退席。市長と一部議員の対立が表面化し、ヤジと怒号が飛び交いました。市民不在の大荒れ議会となりました。

日進市 住民合意ないスマートインターと道の駅は中止せよ、国保5年連続値上げ反対 どちらも7対12に

予算審議の焦点になったスマートインター建設問題。未来ネット会派（3人）からは関連予算の減額修正、にしん市政改革会派（2人）からは関連予算執行を猶予する付帯決議が提案され、日本共産党も賛成しましたが、どちらも賛成7、反対12で否決。予算案は反対5、賛成14で可決されました。

5年連続となる国保値上げにも3会派がそろって反対しましたが、自民・公明会派の賛成多数で可決されました。加入者一人当たり1473円値上げする一方で一般会計からの繰り入れは3500万円削減、基金も



8億2400万円積んだままです。国政問題での共闘だけでなく、市政問題でも共闘するのが当たり前の議会になってきました。

4月22日(水) 2時～
県委員会
地区自治体部長会議です。



新城市 高速バス運行廃止の請願紹介議員3名に

新城市が交流人口を増やす目的で始めた高速バス。3年に及ぶ実証実験が3月末で終了しましたが、乗車実績は目標20名（一台）が6～7名程度です。



高速バスより学校・病院・子育てに税金をせよ！と市民の声が広がっています。そのまま走らせるのか？請願の紹介議員は党議員1人ふくむ3名に。

扶桑町 4議案を全会一致で否決

扶桑町議会は、町長提案議案の予算案など28議案を可決しましたが、4議案は全会一致で否決される異例の展開となりました。党議員2人を含む全員が否決したのは「職員給与条例の一部改正案」と学校や庁舎建設、公共施設の建設目的の基金条例に関する3議案です。給与条例では、改変が条例から規則に変更することで議決権の縮小につながる、会計監査の職責変更で行政監視機能が弱まる、等級引き下げで職員の勤労意欲をそぐ、などが反対理由にあげられています。

コロナ対策で奮闘

瀬戸市会派が行う当局要望にも自粛圧力がかかりましたが、党市議団はそれを跳ね返して連日、各会派の要望を議会としてとりまとめ当局に提出し翌日に回答を得るルールを確立し、住民要望を届け続けています。

本会議質問が中止された蒲郡市議会。党議員は予算委員会の質疑を活用し、宴会自粛や卒業式中止で苦しむホテルや美容院などの声を取り上げ、市からも「温泉旅館組合の調査では3か月で4万人のキャンセル」との調査結果が示され、信用保証料や利子補給などの独自補助の実現につながりました。



岡崎市党市議団は1日、国保資格者証450枚を短期保険証に切り替えよ、と要求。検討が始まっています。

選挙目前の碧南市では党市議団が碧南商工会議所を訪問し中小企業支援について懇談しています。